平成２５年度研究成果報告書《平成 25 年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	1	都道府県・指定都市名	北海道
ふりがな 学校名（生徒数）	ほっかいどうきょういくだいがくふぞくはこだてちゅうがっこう 北海道教育大学附属函館中学校（３５７人）		

（本研究に係る問い合わせ先）
所在地：北海道函館市美原３丁目４８－６
電話番号：0138-46-2233
研究内容等を掲載しているウェブサイトの URL：http://www.hak.hokkyodai.ac.jp/~f-chug-m/

【研究成果のポイント】

○研究課題番号：３中学校
○研究対象教科等：国語
○研究のキーワード：言語能力の習得・活用状況を踏まえた国語科の指導方法等の工夫・改善，全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた指導方法等の工夫・改善
○研究成果のポイント：　各教科等の言語活動に活用できる国語科の学習指導の工夫・改善，全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業の具現化

【研究の目的，研究内容】

（１）研究主題

生徒一人一人が言語の主体的な使い手となる，社会生活に生きて働く言語能力の育成 ～全国学力・学習状況調査の結果分析に基づいた指導方法等の工夫・改善～

（２）研究主題設定の理由

今年度から，全国学力･学習状況調査が，新学習指導要領に基づいて実施されることになった。今後は調査結果を活用し，検証改善サイクルに則った教育指導の充実や学習状況の改善等を継続的に行い，新学習指導要領が掲げる確かな学力の育成を一層進めることが求められる。

本校では，これまで，文部科学省の研究指定(平成 23･24 年度)を受け，新学習指導要領に定める目標等の実現状況を把握するための評価方法等についての研究を行い，一定の成果を出すことができた。この研究の中では，全国学力･学習状況調査の問題を参考に，全教科で思考力･判断力･表現力を見取る問題を作成することにも取り組んだが，全国学力･学習状況調査の結果の分析を，一人一人の生徒への支援や授業改善に十分生かせなかったという課題が残った。

そこで，今回，国語科では，全国学力･学習状況調査の結果や各教科等の言語活動の状況を分析して生徒一人一人の実態を把握するとともに，全国学力･学習状況調査問題等を活用して学習指導の工夫･改善を行うことにより，社会生活に生きて働く言語能力を育成することを研究主題として研究を進めることとした。

（３）研究体制

○　研究部に国語科教諭を配置し，国語科が中核となった研究体制をとった。
○　学年ごとに研究する領域を焦点化し，検証改善サイクルに則った継続的な学習指導の工夫・改善を行った。
○　各教科等の言語活動の状況を把握するため，国語科教諭が授業を観察したり生徒が記述したワークシート等の内容を分析したりするなど，他教科との連携を図った。

（４）１年間の主な取組の経過

平成25年度	○全国学力・学習状況調査の実施及び調査結果の詳細な分析（４月） ○「国語科および各教科等における言語活動についての生徒の意識調査」の実施（４月） ○年間指導計画及び評価規準の見直し（４月） ○年間指導計画に基づく授業実践及び研究成果の検証（５月～12 月） ○校内研究授業（第２学年「書くこと」領域）の実施（７月） ○教育研究大会における研究授業（第１学年「読むこと」領域）の実施及び教育研究紀要の発行（10 月） ○「平成 25 年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイディア例」を活用した授業実践及び研究成果の検証（10 月～12 月） ○実践のまとめ（12 月）

（５）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

① 国語科と各教科等の言語活動の関連を明確にした年間指導計画の工夫・改善

・国語科の指導事項及び言語活動と各教科等の言語活動との関連を明確にし，国語科で身に付けた言語能力を実際に活用して，各教科等の言語活動の充実を図ることができるよう年間指導計画を改善した。

② 全国学力・学習状況調査の結果分析に基づいた生徒の実態把握及び指導方法等の工夫・改善

・平成 25 年度全国学力・学習状況調査の結果を基に，生徒の実態を把握・分析し，学習指導計画の工夫・改善に生かした。

・「全国学力・学習状況調査４年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ」及び「平成 25 年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイディア例」を活用し，指導方法等の工夫・改善を図った。

③ 授業観察等による各教科等の言語活動における国語科で身に付けた言語能力の習得・活用状況の把握及び指導方法等の工夫・改善

・国語科教諭による各教科等の授業観察及び生徒が記述したワークシートやテスト等の分析により，国語科で身に付けた言語能力の習得・活用状況を把握した。

・「国語科および各教科等における言語活動についての生徒の意識調査」を実施し，生徒の状況を把握するとともに，授業を通して生徒の変容を検証した。

・各教科等の言語活動における，国語科で身に付けた言語能力の習得・活用状況を踏まえ，さらに指導方法等の工夫・改善を図った。

④ 全国学力・学習状況調査の「主として『活用』に関する問題」を参考にしたペーパーテストによる評価の工夫・改善

・授業後，全国学力・学習状況調査の「主として『活用』に関する問題」を参考に国語科でペーパーテストを作成し，生徒の変容を把握・分析した。

【研究成果とその意義等】

（１）研究成果

○ 国語科で学習したことを各教科等の言語活動に活用できるよう学習指導計画を工夫・改善したことにより，身に付けた言語能力を主体的に活用する生徒の姿が見られるようになった。

○ 全国学力・学習状況調査の結果分析を踏まえて指導方法等を工夫・改善したことにより，一人一人の生徒の実態に応じた適切な指導を行うことができた。

● 社会生活に生きて働く言語能力を高めるためには，生徒が役立つと実感できる実用的な言語活動を取り入れた学習指導を一層工夫する必要がある。

（２）研究成果の意義等

○ 各教科等の言語活動の状況を踏まえた国語科の学習指導計画の工夫・改善及び国語科で身に付けた言語能力の各教科等における主体的な活用という双方の観点で研究したことにより，関連を重視した継続的な指導の成果を明らかにすることができた。

○ 「平成 25 年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイディア例」を活用した指導方法等の具現化を図ったことにより，授業改善のポイントについて理解を深めるとともに，生徒の変容を通して成果を明らかにすることができた。

（３）指定期間終了後の取組

○ 社会生活に生きて働く言語能力を一層高めるために，生徒が役立つと実感できる実用的な言語活動を取り入れた学習指導の工夫・改善を継続して進める。

○ 地域の国語教育研究会や教育研究大会等を通して研究成果を積極的に発信し，全国学力・学習状況調査の結果分析を踏まえた継続的な指導方法等の工夫・改善の必要性について共通理解を深める。

○ 北海道教育大学が取り組んでいる「学力向上プロジェクト」において，学力向上に向けた具体的な取組として本研究の成果を発表する。